

単組番号 20	単組名 蒲 郡	中央小学校	アマガス エリカ 名前 天春 恵梨華
分科会番号	10	分科会	家庭科教育

#### 研究題目

自ら課題に気づき、意欲をもって解決し、学びの価値を実感する子の育成  
～6年 家庭科「クリーン大作戦できれいにしよう！」の実践を通して～

#### 研究要項

##### 1 研究のねらい

本学級子どもたちは、素直で明るく、6年生として他学年のお手本になりたいという思いがある。他学年ともよくかかわり、休み時間に1年生の教室に行って一緒に遊ぶ児童も多い。また、本校の全学年で毎週火曜日に行う「なかよし清掃」では、縦割りグループである「なかよしグループ」で6年生が中心となって清掃活動を行っている。

一方で、普段の清掃の時間には、挨拶をしてからもなかなか取りかかれずに「面倒くさいな」「何でしないといけないの」と清掃を億劫に感じている子が多く、前向きに取り組んでいる子は少ない。一通り清掃に取り組むことができるものの、ごみの掃き残しがあったり、いつもと違うよごれがあったりしても、清掃の方法を知らず、工夫ができない子がほとんどである。

そこで、普段行っている清掃を見直し、よごれの種類や程度に応じた清掃の仕方を学ぶことで、工夫して清掃できるようになってほしいと願い、主題を「自ら課題に気づき、意欲をもって解決し、学びの価値を実感する子の育成」とし、研究実践に取り組むこととした。本実践を通して、身の回りの清掃の大切さやよごれの種類、場所に合った清掃の仕方を知り、これからの生活で工夫して取り組んでいく姿を期待する。

##### 2 研究の概要

###### (1) めざす子ども像

### 自ら問題に気づき、意欲をもって解決し、学びの価値を実感する子の育成

###### (2) 研究の仮説と手立て

**仮説Ⅰ** 身の周りの汚れを視覚化したり、仲間の考えにふれる場を設定したりすることで、新たな視点で生活を見つめながら、自ら問題に気づくであろう。

**仮説Ⅱ** ワークシートを工夫し、実践の場を設定することで、目的が明確になり、意欲をもって課題解決することができるであろう。

**仮説Ⅲ** 他学年に学びを広げる場を設定することで、他者評価を得ながら、学びの価値を実感することができるであろう。

**仮説Ⅰ手立て** I-① 視覚支援

I-② 話し合いの場の設定

**仮説Ⅱ手立て** II-① ワークシートの工夫

II-② 実践の場の設定

**仮説Ⅲ手立て** III-① 学びを広げる場の設定

(3)題材構想 クリーン大作戦できれいにしよう！(全11時間)

学習の流れと予想される子どもの反応	・指導の手立て◎評価
<p>どうして毎日掃除をするのかな。</p> <p>掃除をしたらごみがたくさんとれたね。</p>	<p>・意識の掘り起こしのために掃除後の教室のよごれに注目するように声をかける。</p>
<p><b>掃除後の教室や廊下をよく見てみよう</b>①話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除したはずなのに、髪の毛や消しかすがおちているよ。</li> <li>・ほこりやカビがあると体によくないって聞いたことがあるな。</li> <li>・どうしたら残ってしまったよごれやごみを綺麗にできるんだろう。</li> </ul>	<p>・よごれを実感するために、ほこりを顕微鏡で見せたり、集めたほこりなどをテープで集め場所ごとに比較したりする。 <b>手立てⅠ-①</b></p>
<p><b>教室や廊下のよごれウォッチング</b>②計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よごれの種類もいろいろあるんだね。道具の使い分けが必要なのかな。</li> <li>・ほこりを顕微鏡で見たら、細かいごみがたくさん集まっていたよ。</li> <li>・お家から掃除の道具をもってきたいな。やり方も聞いてこよう。</li> </ul>	<p>・どんなよごれがあるのか、視覚的に理解するために、教室の図を用意し、書きこめるようにする。 <b>手立てⅠ-①</b></p>
<p><b>クリーン大作戦できれいにしよう！</b></p>	<p>・清掃に対する課題をもって取り組めるようにするために、「お掃除計画書」に事前に計画を立てる。 <b>手立てⅡ-①</b></p>
<p><b>クリーン大作戦(教室・廊下)</b>③実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板の方向にそって、ほうきを動かすと隙間のごみもとれるよ。</li> <li>・絵の具のよごれは、水でぬらしたぞうきんで取れるよ。</li> <li>・みんなはどんな道具で、どんな方法で掃除をしたのかな。</li> </ul>	<p>・これまでの学びを生かして活動することができるように学習の足跡を掲示する。 <b>手立てⅠ-①</b></p>
<p><b>クリーン会議(教室・廊下)</b>④話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・綿棒で窓のさんの隙間を掃除したら、ぴかぴかになったよ。</li> <li>・ほうきを使ったけど、ほこりは、飛んでどこかいっちゃったよ。</li> <li>・〇〇さんの考えた道具で掃除をしたらこんなにきれいになるんだね。</li> <li>・〇〇さんのアイデアでもう一度掃除をしたいな。</li> </ul>	<p>・実践の成果を客観的に評価できるようにするために清掃の前と後の写真を撮って比較する。 <b>手立てⅠ-①</b></p>
<p><b>クリーン大作戦Ⅱ(教室・廊下)</b>⑤再実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんのアイデアの歯ブラシを使って、チョーク入れを掃除したら、よくとれたよ。</li> <li>・タブレットで掃除の前のよごれを見てみると、きれいになったことがよくわかるね。きれいになると気持ちがいいね。</li> <li>・教室廊下がきれいになったよ。学校全部をぴかぴかにしたいな。</li> </ul>	<p>・他の子の清掃の仕方や自分が気づかなかったよごれにも目を向けるために「クリーン会議」を行う。 <b>手立てⅠ-②</b></p>
<p><b>学校みんなで使う場所はきれいかな</b>⑥計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階段のすみにたくさんほこりがたまっていたよ。</li> <li>・児童玄関は砂やどろが多いね。タブレットで写真を記録しよう。</li> <li>・中央小学校のみんながよく使う場所を調べて、きれいにしたいな。</li> <li>・動画で見た、しめり拭きが使えそうだね。</li> </ul>	<p>・技術を身につけ、実践の楽しさを味わえるように、もう一度清掃の機会を設ける。 <b>手立てⅡ-②</b></p>
<p><b>中央小 もっと クリーン大作戦！(学校)</b>⑦実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは、今の掃除場所のトイレが気になるな。においもとれるかな。</li> <li>・児童玄関は床がざらざら。掃除がしにくいな。いい道具ないかな。</li> <li>・他の場所はどうやって掃除をしたのかな。</li> </ul>	<p>・自分の活動を見つめなおし次の活動への意欲付けを図るために、実践後の振り返りの時間として話し合いの場を設ける。 <b>手立てⅠ-②</b></p>
<p><b>中央小 もっと クリーン会議(学校)</b>⑧話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童玄関はげた箱を掃除してから、床掃除するといいよ。</li> <li>・集会室は広いから、はく方向を決めると掃除がしやすいよ。</li> <li>・きれいになると気持ちがいいから、もっと学校中をきれいにしたい！</li> <li>・他の学年にも教えて、みんなで中央小をぴかぴかにしたい！</li> </ul>	<p>・清掃の成果を実感できるようにするために、クリーン大作戦後の感想を全校から集める。 <b>手立てⅢ-①</b></p>
<p><b>クリーン大作戦をみんなに伝えよう</b>⑨計画⑩⑪発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちがみつけた、掃除の仕方を下の学年に教えよう。</li> <li>・場所ごとの動画を制作して、全学年に見てもらいたいな。</li> </ul>	<p>・もっとクリーン会議では、意欲的に取り組んだ子ども取り上げ、今後の活動につなげていく。 <b>手立てⅢ-①</b></p>
<p>クリーン大作戦で身につけた技を使って家もきれいにしたよ。</p> <p>卒業プロジェクトでも、技を生かして掃除をしたいな。</p>	<p>◎清掃の基本的な知識技能を身につけ、最高学年として学校のためにすすんで清掃しようとする実践意欲を高めることができたか。(活動・話し合いの様子)</p>

出会う・見通す

追究する・かかわり合う

### 3 研究の実践と考察

#### (1) 抽出児童Aについて

児童Aは、素直で学習に意欲的に取り組める。授業での発言は少ないが、友達の発言をよく聞いて、意見を取り入れることができる。一方で、清掃に対しては前向きに取り組むことが難しい。「ぞうきんはやりたくないな」と発言したり、清掃終了前に道具を片付けて、時間が過ぎるのを待っていたりすることがあった。本題材を通して、児童Aが清掃の大切さに気づき、清掃活動にすすんで取り組み、工夫して清掃したいと動き出す姿を期待する。

#### (2) 実践と考察

##### ① 教室や廊下のごれウォッチング(仮説Ⅰ-①)

清掃後の授業で、教室内のよごれを確認すると「まだ紙くずが落ちている」「廊下はまだよごれているよ」と児童がつぶやいた。教室・廊下のごれやごみへ意識が向いたので、よごれウォッチングを行った。よごれウォッチングは、見つけたよごれやごみをセロハンテープで採取し付箋に付け、それを班ごとに教室の平面図の「よごれ・ごみマップ」に貼った(資料1)。児童Aは「ちゃんと掃除したのに、床に消しカスがたくさん落ちているよ」「黒板の上って見えないけど、触るとほこりだらけだ」とごみやよごれを見つけていた。見つけたほこりを顕微鏡で拡大してテレビの画面に映すと(資料2)、「髪の毛と糸みたいなのがからまっていて気持ちが悪い」「ほこりっていろんなごみの集まりだ、汚い」とつぶやいた。また、「ほこりがある所によくダニがいるんだって」という児童の言葉に驚いていた。振り返りの話し合いから「床のすみにほこりがあって汚いからきれいにしたい」などの声が上がったため「クリーン大作戦」を行うことにした。



資料1 班で作成したよごれ・ごみマップ

よごれをセロハンテープで採取して掲示したり、ほこりを拡大した画像を提示したりしたことで、掃除ができていない事実を実感としてとらえさせ、掃除をする大切さに気づかせることができた。



資料2 ほこりを拡大したもの

##### ② クリーン大作戦(仮説Ⅰ-① Ⅱ-①、②)

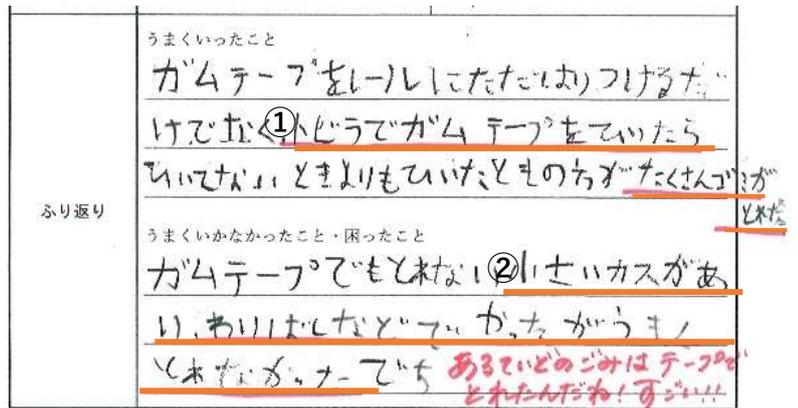
クリーン大作戦では、各自が清掃したい場所を選択し清掃することとした。児童Aは取りにくい黒いよごれがついていた教室と廊下の境目にある戸の下のレールを選んだ。レールは以前にはうきを使って清掃をしたことがあるようで、「ほうきでは無理だった。セロテープとガムテープを使って掃除してみる」とテープを使って清掃することを計画し、お掃除計画書に記入した(資料3)。

お掃除計画書をもとにクリーン大作戦を実行した。普段の清掃の時間を意識して15分間で清掃することとした。ほとんどの児童が黙々と清掃を行い、中には時間になっても「あと少し、ここだけきれいにしたい」「あと5分延長

お掃除計画書		名前
場所	とていの下(レール)	
よごれの種類	黒いカス	
道具	テープ	
方法	テープをレールにくっつけとていでテープをいいてカスなどよくつけとる。テープを貼ってさうじするんだね!! きれいに掃除するの!!	
結果		

資料3 児童Aのお掃除計画書

しよう」と清掃をし続ける児童もいた。児童Aも時間いっぱい清掃に取り組み、「ガムテープの方が良く取れる、見てこんなによごれがとれた」と友達に自慢げに話していたり、近くで割りばしを使っている子の様子を見て、同じように割りばしでよごれをこすったりしていた。児童Aの振り返りには、「扉でガムテープを引いたらたくさんごみがとれた（下線①）」と効果を実感する記述と、「小さいカスがあり、わりばしなどでやったがうまくとれなかった（下線②）」とうまくいかなかった点の記述があった（資料4）。



資料4 児童Aのお掃除計画書振り返り

ワークシートを工夫し、よごれの種類や方法を記入してから清掃を行ったことで、児童Aは自分のやることに意識して取り組めた。また、清掃前と後の写真を撮って見比べられるようにしたことで、達成感を味わうことができた。

### ③ クリーン会議(仮説I-②)

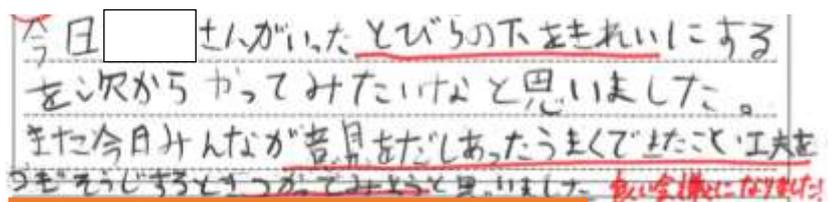
クリーン大作戦の途中で他の子の清掃について知りたいという声が上がったので、清掃の仕方・やり方を伝え、アドバイスをし合う「クリーン会議」を行った。「うまくできたこと・工夫」の伝え合いで、児童Aは同じ場所を清掃した児童の発言の後に、「つけたしで、ぼくも同じところを掃除して、ガムテープを使ってきれいにしました。ガムテープの方がたくさんよごれが取れるけど、それでも取れない細かいところはセロハンテープでやったら取れました」と発言をした。クリーン作戦の活動に熱中して取り組み、きれいになったという満足感がこの発言につながったと考えられる。

「うまくできなかった・困ったこと」についての話し合いで、児童Aは「一回きれいにしたところにレールが通るとまた汚くなってしまう」と自分が困っていることを、清掃の前後の写真を示して発言した。真剣に清掃に取り組んだから生まれた困

りごとに対し、アドバイスをしてくれた児童の意見（資料5）を児童Aは集中して聞き、振り返りに「つぎ、そうじするときにつかってみようと思いました（資料6）」とさらに実践したいと意欲を高めることができた。クリーン会議後に、振り返りや実践の様子をまとめて掲示した（資料7）。児童Aは、友達の振り返りを読んで気づきに感心したり、困りごとに共感したりしていた。掲示物にまとめて提示したことで、互いの気づきをじっくりと交流させることができた。

T :クリーン大作戦で「うまくできなかった・困ったこと」はありますか。  
 児童A:戸の動かすところを掃除して、ガムテープとかセロハンテープでけっこうきれいになったんだけど、(写真を示して)ここは磨いても取れませんでした。あと、一回きれいにしたところにレールが通るとまた汚くなってしまいました。  
 C1 :きっと戸の下についている車輪がよごれてしまっているから、まずはそこをきれいにした方がいいと思う。きっとそこもテープを使えばきれいにできるんじゃないかな。

資料5 授業記録



資料6 クリーン会議後の児童Aのクリーン日記



資料7 クリーン会議についての掲示物

#### ④ クリーン大作戦Ⅱ(仮説Ⅰ-① Ⅱ-②)

「また、クリーン大作戦をやりたい」という声から、クリーン大作戦Ⅱに取り組んだ。1回目と同様に、15分間で同じ場所の清掃を行った。児童Aは、「クリーン会議」でのアドバイスを活かし、戸の下の車輪のよごれをテープでしっかりとることで、よりきれいにすることができ、うれしそうな様子が見られた。さらに、よごれウォッチングの際に作成しクラスに掲示してあった「よごれ・ごみマップ」(資料8)を見て、「他の子がこの上にもほこりがあるのを見つけていたな」と自ら残りの5分間で戸の上のレールの部分も掃除し始めた(資料9)。児童Aの振り返りに「思ったいじょうにほこりがとれて、きれいにできました(資料10)」とあり、その場所にあった清掃の仕方を考えて取り組むことで、きれいになった喜びを感じることができた。クリーン大作戦を繰り返し実践したことで、自らの課題を解決でき、さらにほかの場所も清掃したいという意欲にもつながった。

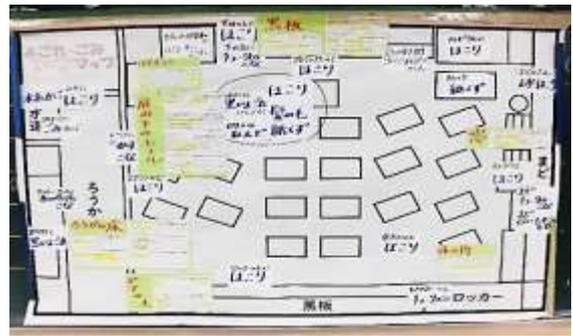
中央小もってクリーン大作戦を行う前に、「もっときれいに掃除するために、正しい掃除方法を知りたいな」という声があがり、掃除道具の正しい使い方を動画で視聴し学ぶことができた。

#### ⑤ 中央小もってクリーン大作戦!(仮説Ⅱ-①、②)

「これで、中央小はびかびかだね」とクリーン大作戦Ⅱの後に声をかけたところ、多くの児童が「いや、放送室前はよくごみが落ちているよ」「体育館の2階の床には、虫の死骸がたくさん落ちているのを見たことがある」「じゃあ、学校のよごれウォッチングもしよう」と声があがった。クリーン大作戦で自信をつけた子どもたちは、学校内の他の場所のよごれに目を向けはじめた。

学校内のよごれウォッチングの後、班で分かれて学校を清掃する「中央小もってクリーン大作戦」に取り組んだ。児童Aの班はパソコン室を清掃することに決め、使う道具や清掃の方法についてお掃除計画書に記入した。児童Aは、仲間とともに計画書をもとに清掃活動を行った。パソコン室の床に落ちていたプラスチックの破片をほうきで丁寧に掃いて集めていた(資料11)。また、掃除道具の使い方学んだ、ぞうきんの3分の1ほどを濡らしてしぼったしめり拭きの方法で、机を拭くことができた。正しい清掃方法を知った児童Aは、清掃場所にあった道具と

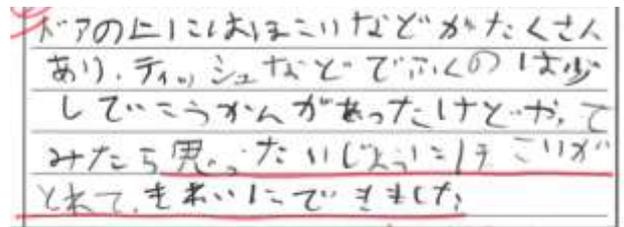
方法で、仲間と助け合って清掃ができるようになった。さらに、清掃前後の写真(資料12)を他の班の児童にも見せて「すごくきれいになった」と自慢するほど、清掃に対してやる気をもって取り組めるようになった。



資料8 よごれ・ごみマップ



資料9 戸の上を清掃する児童A



資料10 児童Aのクリーン日記



資料11 パソコン室を清掃する児童Aたち



資料12 清掃前後のパソコン室

## ⑥ 中央小もっとクリーン会議（仮説Ⅰ－②）

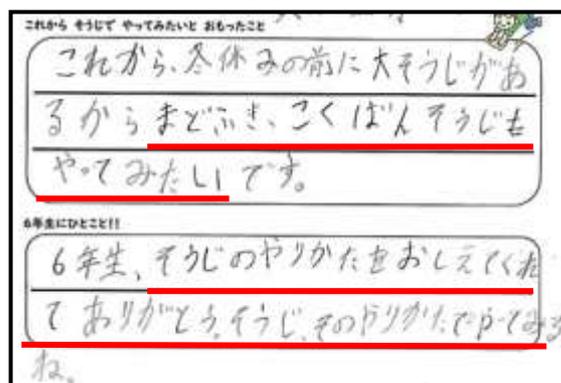
中央小もっとクリーン大作戦の実践を伝え合うために、中央小もっとクリーン会議を行った。児童Aの班は「うまくできたこと・工夫」として、しめり拭きで机を拭いたこと、散らかっていたプラスチックのごみを集めることができたことを発表した。「うまくできなかった・困ったこと」では、床についた白いよごれが取れなかったこと、みんなで一か所の清掃をしたため、広い範囲の清掃ができなかったことを挙げた。それに対して、「濡れぞうきんの角で爪を使って磨くと、よごれが取れるよ」「傷つけないように注意がいるけど、定規の角でこするのもいいよ」などのアドバイスがあった。清掃について2度の話し合いをもったことで、できたこと困ったことをすすんで伝え合ったり、互いの意見をよく聞き合ったりして、自ら課題を解決していこうとする姿がみられた。

## ⑦ クリーン発表会（仮説Ⅲ－①）

なかよし清掃で、他学年がうまく掃除をしていないことに気づいていた子どもたちは、全校の仲間に正しい掃除の仕方を伝えたいという思いをもった。児童Aの班は、階段掃除で困っているという3年生に発表をすることになった。タブレットの操作が得意な児童Aを中心にパワーポイントの制作をすすめた。発表では、実演をして説明をしたり、物語で清掃の必要性を伝えたりした（資料13）。発表後に、他学年から、「ほうきの持ち方がわかったから次の大掃除でやってみたい」「6年生の話聞いて掃除がしたくなった」と清掃に対して前向きな記述があった（資料14）。児童Aは嬉しそうにアンケートを読んでいた。清掃についての学びを他学年に伝えることで、自分たちの学びの価値と、自身の成長に気づくことができた。



資料13 発表をする児童



資料14 他学年からの感想

## 4 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

**児童Aの変容** 清掃活動にあまり積極的ではなかったが、身近な汚れを視覚的に知ることで集中して活動できた。さらに話し合いからよりよい清掃の仕方に気づき、「もっときれいになりたい」という思いをもって、進んで清掃に取り組むことができた。また清掃の仕方を他学年に伝えたことで、自分の頑張りを認められた喜びを感じることもできた。

**仮説Ⅰの検証** ほこりを拡大した画像で見せたり、清掃の前後の違いを見比べたりしたことで、清掃の大切さを実感した。清掃後に話し合いを行うことで、よりよい清掃の仕方に気づくことができた。

**仮説Ⅱの検証** 実践の場を設けたり、掃除場所、よごれの種類、道具、方法を記入するワークシートを用いたりしたことで、各自の実践内容が明確になり、意欲的に取り組めた。

**仮説Ⅲの検証** 清掃についての学びを他学年に伝えることで、自分たちの学びの価値と、自身の成長に気づくことができた。

### (2) 課題

- ・実践中は、清掃に対して意欲的に取り組むことができたが、実践後に意欲を継続することが難しい。
- ・清掃のやり方は学べたが、家庭での実践につなげることができなかった。今後は子どもたちの生活にもつながるような実践をしていきたい。